週刊ストライキニュース　NO.55

週刊ストライキニュース

NO.55
争議団ストライキ書記局発行

白テロ弾圧を蹴飛して集中的攻撃に移れ

俺たちが争議団本部奪還のスローガンを掲げてからもう十余日になる。二十五日には大衆行動になって奪還しようとしたが動員の不足や時間の手違い、出版合工場の大衆とのつながりの結びついてゐなかった点などから失敗にまゝ終ふるに共産党被告奪還のデモに参加した同志中塚はやられ、争議団假分部は家宅捜索され、基金募集に行った百瀬、神道、吳は検束されるなど官憲の暴圧は全く熾烈を極めて来た。然し俺たちは失敗の中から勝利への教訓を引き出し弾圧の為に手を出し一層強め困難に会する毎に勇気を百倍にして戦はねばならぬ。俺達の攻撃に震へ上ってゐる福田は天皇に暴力団を数名傳へ スキヤップの家には二名づつの護衛を附し おまけに官憲を事務所内に張り巡らせるなどしてゐるが 其の弾圧はもうすっかり崩れ仲間喧嘩を初めたりスキヤップや暴力団はダラく金が貰へないので一すしたこゝからでも福田に叛旗を翻さうとしてゐる。かゝる情勢は俺達が集中的攻撃をなすに絶好の機會なのだ。今度の突撃こそは必ず前の失敗を取返し争議団本部を奪還し敵に致命的打撃を與へなければならぬ。この為に俺達は多少の犠牲を恐れてはならない。犠牲はあっても少なくしなくてはならぬが犠牲を恐れては勝利も獲得することは出来ない。スキヤップ加藤、西定今年、飯原田、北等にも決定的制裁を加へなければならぬ。奴等を今日まで のさばらせて置いたことが福田をして つけ上らせた一つの原因なのだ。奴等に対する俺達の怒りの爆発は数千万の貯金をとって今日は帝劇一日は三越といい調子で警察官を眼に暮れる福田の弾圧に対しても徹底的に叩きのめさねばならぬ。特に奴ら福田を あやつって俺達の復讐を踏み潰そうと企んでゐる妖婆の正体を暴露しなければならぬ。

勇敢な街頭デモで八・一デーを闘ひ抜く

日本帝国主義による満蒙侵略戦争が一段落つき日本帝国主義ブルジョアジーは將に新たなる戦争の段階即ち対ソヴエート干渉戦争、対米帝国主義戦争の挑発と準備に狂奔してゐるさなかに吉々プロレタリアートは意義ある第四回反戦デーを迎へた。

思へば起こは一九一四年八月一日を。この日こそ欧州各国の帝国主義が数千万のプロレタリヤを砲弾の餌食に供した あの大戦の幕を切って落とした日だ。

所が忘れも起こ各国社会民主主義者の裏切りの為の賣国的な社会ファシスト国社会民主主義者の裏切りの為の賣国的な社会ファシスト国社会民主主義者の裏切りの為の賣国的な社会ファシスト